あいおいニッセイ同和損保
ザ・フェニックスホール 情報誌

THE PHOENIX HALL

Salon

Vol.124 2020年1月 新春号

ホール3F 壁画 ポール・ギアマン作「花とヴァイオリン」

CONTENTS

01 Prime Interview ── デジュー・ラーンキ
03 Phoenix Presents ── 2020年度主催公演一覧
05 Pick Up
07 Essay de say ── ヴァイオリンは「弾く」楽器なのか 木場大輔
～胡弓演奏家からの提言～

あいおいニッセイ同和損保

深く熟成されたみずみずしいピアニズム
デジュー・ラーンキさん

©Szilvia Csibi

デジュー・ラーンキがティータイムコンサートに登場する。初来日は1975年。当時の音楽雑誌のバックナンバーを繰ると、ラーンキの行く先々にアイドルのように若い女性たちが押し寄せている様子が写されていて、今や隔絶の感がある。ハンガリーの若手ピアニスト三羽烏としてアンドラーシュ・シフ、ゾルタン・コチシュとともに脚光を浴びてから早くも50年近くが経つわけだ。三人一緒にひとくくりにされてしまったが、実のところそれぞれのキャラクターは当時からどれも違っていた。その中でラーンキが奏でる音楽は一際みずみずしく、今に至るまで真っ直ぐに深く熟成してきたように感じている。ラーンキ自身は若い頃のファンの熱狂ぶりには、一切無関心だったと聞いたことがある。おそらく当時からラーンキの音楽へ向かう姿勢は、全くぶれずに定まっていたはずだ。こうして培われた彼が奏でるピアノの響きを、間近で味わうことのできる機会を心待ちにしたい。

（取材・文：小味渕彦之／音楽学、音楽評論）

デジュー・ラーンキ（Dezsö Ranki／ピアノ）
デジュー・ラーンキは、ハンガリー出身で最も偉大なピアニストのひとり。フランツ＝リスト音楽院で学び、パル・カドサに師事。1969年にドイツのロベルト・シューマン・コンクールで優勝。その後国際的な舞台で活動を始めた。ラーンキは古典派、ロマン派のみならず近現代も高く評価されており、これまでに世界各国の主要な都市で高い評価を受け、著名なフェスティバルにも数多く招待されている。録音も多く、中でもショパンのエチュードop.10の解釈では、“クランプリ・ド・アカデミー・シャルル＝クロ”を受賞した。2010年10月に久々の日本ツアーを行い、朝日新聞紙上において「瑞々しい自然体の優美さ」と大絶賛を博した。

ベートーヴェンとシューマンの調和のとれたプログラム

Dezső Ranki

近年のラーンキさんの演奏会では、ベートーヴェンが主要なレパートリーになっているように思います。今回のリサイタルのプログラムでも、前半にベートーヴェンの作品が3曲並びました。今、改めてベートーヴェンの音楽に取り組む意味を教えてください。

子供の頃からずっと、どんな時でも、私はベートーヴェンの作品に取り組んできました。(番号の付いた32曲の中で)20作品ほどのピアノソナタ、5曲のピアノ協奏曲すべて、同様に多くの室内楽作品です。だから、私にとってベートーヴェンの音楽は、私の音楽生活の中で基礎的な役割を果たしているのです。

ブダペストのリスト音楽院で私の師であったパール・カドシャが言っていた「ベートーヴェンは最も偉大な作曲家だ。なぜならば、ベートーヴェンはほとんど多くの人々の精神に到達することができるからだ」という言葉を、私は思い出しています。

もちろん、こうしたことを言葉で説明するのは本当に難しいことです。ですが、間違いなくベートーヴェンの音楽は、私たちの最も重要な、そして最も深い感情へ向かう道程を見つけることができ、それに気づかせてくれるのです。

op.27の二つの作品の間に、6つのバガテルという晩年の作品が配置されています。この選曲と演奏順についてその意図をお聞かせください。

私は《6つのバガテル》という小品集を心から愛しています。この作品は若々しいエネルギーと、親密でベートーヴェンの心の奥底にある時の流れに満ち溢れています。ベートーヴェン自身もまた、この《6つのバガテル》をとても気に入っていました。op.27の二つのソナタとは、書き上げた時期が20数年も違っているにもかかわらず、作品の性格と調性において、とても良く調和するのです。そして私のこれまでの経験を顧みても、これは最高の組み合わせだと言えるでしょう。

後半はシューマンの幻想曲が選ばれていますが、前半のベートーヴェンとの関連はありますか?シューマンの作品はあなたにとって大切なレパートリーだと思いますが、今回この幻想曲を選んだ意図を教えてください。

もちろん、私は常にプログラムというものを全体として考えています。作品すべてによって組み立てられたものが、持続的な過程を創造するべきです。そして聴衆に対して、一つの大きな、そして複雑な、それでいて均衡のとれたという印象を与えなくてはなりません。

シューマンの《幻想曲》は、私が初めてこの曲を弾いた50年前から、ベートーヴェンの作品とプログラムの半分ずつ配置されることで、よいアンサンブル(=調和)を創り上げていると、私は確信しています。

大阪でのコンサートは久しぶりだと思います。この街への印象と、聴衆へのメッセージをお願いします。

私はこれまで大阪で12回の演奏会を開いてきました。最初は1975年で、一番最近は1995年になります。ただし、オーケストラと共演しての協奏曲となると、2012年に弾いています。そして、ここからそう遠くはない兵庫県西宮市では、2年前と4年前にリサイタルを開催しました。

©飯島隆

大阪に滞在した時の思い出は素晴らしいものばかりです。この街を初めて訪れてから40年以上になりますが、いつも、とても素晴らしく、フレンドリーな聴衆の皆さま、卓越したコンサートホールの数々、そして、美味しい食べ物!と、信じられないほどの思いをしてきました。あなた方の街である大阪を再び訪れることを、心から楽しみにしております。

デジュー・ラーンキが綴る言葉の一つ一つから、彼が奏でるピアノとも共通する、真っ直ぐな思いが伝わってきた。メールで尋ねたそれぞれの質問に対しての、簡潔な言葉で綴られた答えには、ラーンキが音楽に向かう姿勢そのものが映し出されているように感じた。どんな時でも真摯に取り組むラーンキが表現する音楽からは、私たち聴衆が、ともすれば忘れてしまいがちな音楽と向き合う時の一番大事な関係を、思い出させてくれるように思う。

デジュー・ラーンキ ピアノリサイタルは、2020年4月17日(金)14時開演。指定席。お茶菓子付で、一般4,500円、友の会会員4,050円。学生1,500円(限定数、25歳以下)。
チケットのお求め、お問合わせは同センター(電話06-6363-7999　土・日・祝を除く平日10時〜17時)。
[プログラム] ベートーヴェン:ピアノソナタ 第13番 変ホ長調 op.27-1　6つのバガテル op.126　ピアノソナタ 第14番 嬰ハ短調「月光」op.27-2
シューマン:幻想曲 ハ長調 op.17 (予定)

あいおいニッセイ同和損保 ザ・フェニックスホール 2020年度主催公演速報

2020年度、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールの主催公演のラインナップです。渡邊規久雄アドヴァイザー監修のもと、人気のティータイムコンサートシリーズ、ギターの祭典Osaka Guitar Summer、世界的ヴィオラ奏者、今井信子と新進気鋭の作曲家レーラ・アウエルバッハが共演する現代音楽プログラムなど、自信をもってお勧めできる公演を揃えました。2020年度も「室内楽の殿堂」ならではの質の高い演奏を是非ともお楽しみください（公演名などは、今後変更となる場合がございます）。

2020年

発売中
■世界をリードする弦楽四重奏の饗宴
4月11日（土）
アタッカ・クァルテット
出演：エイミー・シュローダー、徳永慶子（以上ヴァイオリン）、ネイサン・シュラム（ヴィオラ）、アンドリュー・イー（チェロ）

発売中
■ティータイムコンサートシリーズ
4月17日（金）
デジュー・ラーンキ ピアノリサイタル

発売中
■注目アーティストシリーズ
5月10日（日）
ジョヴァンニ・ソッリマ チェロリサイタル

発売中
■ティータイムコンサートシリーズ
6月5日（金）
古海行子（ふるみやすこ） ピアノリサイタル

発売中
■ティータイムコンサートシリーズ
7月10日（金）
オーレン・シェヴリン チェロリサイタル
出演：芦川真理子（ピアノ）

3月発売予定
■Kansai Soloists & Ensembles
8月29日（土）、30日（日）
Osaka Guitar Summer 2020 ＜福田進一と仲間たち vol.11＞
出演：福田進一、大萩康司、岩崎慎一、益田展行、猪居謙、猪居亜美（以上ギター）　他

発売中
■ティータイムコンサートシリーズ
10月30日（金）
ロータス・クァルテット with フィリップ・トーンドゥル
出演：小林幸子、マティアス・ノインドルフ（以上ヴァイオリン）、山﨑智子（ヴィオラ）、齋藤千尋（チェロ）、フィリップ・トーンドゥル（オーボエ）

発売中
■ティータイムコンサートシリーズ
11月20日（金）
葵トリオ
出演：小川響子（ヴァイオリン）、伊東裕（チェロ）、秋元孝介（ピアノ）

発売中
■ティータイムコンサートシリーズ
12月4日（金）
ディートリヒ・ヘンシェル バリトンリサイタル
共演：岡原慎也（ピアノ）

5月発売予定
開館25周年記念コンサート
■注目アーティストシリーズ
12月10日（木）
今井信子presents
今井信子（ヴィオラ）×レーラ・アウエルバッハ（ピアノ・作曲）
～ヴィオラとピアノのための24の前奏曲～

2021年

発売中
■ティータイムコンサートシリーズ
1月22日（金）
今井信子presents
ティモシー・リダウト＆今井信子 ヴィオラデュオリサイタル

7月発売予定
■世界一周音楽の旅
1月30日（土）
ヴァルティナ
出演：マッリ・カーシネン、スサン・アホ、カロリーナ・カンテリネン（以上ヴォーカル）

9月発売予定
■アンサンブル・ア・ラ・カルト
2月27日（土）
ミニマル・ミュージックの軌跡 ～オール・ライヒ・プログラム～
出演：中川賢一（ピアノ）　他

9月発売予定
■注目アーティストシリーズ
3月20日（土・祝）
伊東信宏 企画・構成
土と装飾：郷古廉＆加藤洋之 デュオリサイタル

※ロータス・クァルテット with フィリップ・トーンドゥル公演の日程が、10月23日（金）から10月30日（金）に変更になりました。ご了承願います。

新年のご挨拶

みなさま　輝かしい新年を迎えられたことと存じます。昨年はあいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールにご愛顧を賜り、誠にありがとうございました。当ホールにご来場されます全てのお客様にご満足いただけるホールとして、スタッフ一同、一層の努力をして参りますので、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。みなさまにとりまして、この一年が素晴らしい年になりますようご祈念申し上げますとともに、ご来館を心よりお待ちいたしております。

2020年　あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール　スタッフ一同

2020年度主催公演 ラインナップについて

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールがお届けする2020年度の主催事業のラインナップが決まりました。どの公演も自信を持っておすすめできる渾身のプログラムです。各公演の魅力や聴きどころについて、紹介させていただきます。

まずは大人気のティータイムコンサートから。初回の「デジュー・ラーンキ」は、1970年代に一世を風靡した大人気ピアニストです。長らく来日公演はありませんでしたが、2010年に久々に来日し絶賛を博しました。知的で透明感のある演奏はまさに円熟の極み。プログラム構成も非常に練りこまれており、ラーンキならではの世界観を楽しんでいただけると思います。

その他、日本人で初めて高松国際ピアノコンクールで優勝し、昨年秋（2019年11月）にはパデレフスキ国際ピアノコンクールで3位に入賞した「古海行子」、最難関とも言われているミュンヘン国際音楽コンクールで優勝した「葵トリオ」、世界3大ヴィオラコンクールの一つであるライオネル・ターティス国際ヴィオラコンクールで優勝した「ティモシー・リダウト」など、世界から注目を集めている若手演奏家から、実力派チェリスト「オーレン・シェヴリン」、ドイツを拠点に世界で活躍する「ロータス・クァルテット」、名匠フィッシャー＝ディースカウの正統的後継者といわれる「ディートリヒ・ヘンシェル」らベテランアーティストまで豪華なラインナップとなっております。1年間に渡り上質な音楽をお楽しみください。

注目のアーティストシリーズとしては、今、話題沸騰のチェリスト・作曲家の「ジョヴァンニ・ソッリマ」が初登場。ヨー・ヨー・マ、2Cellosなどからリスペクトされ、その作品が多くのプロ奏者に演奏されるなど、並外れた器と才能を持ちあわせた規格外のマエストロです。

毎年恒例のOsaka Guitar Summerは11年目に突入。ギタリスト、プロデューサーの「福田進一」は、昨年秋に公開された映画「マチネの終わりに」で福山雅治（主人公役）の吹き替え演奏を担当しました。今、巷ではじわじわとクラシックギターの熱が広がっているようです。世界最高レベルの演奏を最高の空間でお楽しみください。

そして12月には、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール開館25周年記念として、世界的ヴィオラ奏者「今井信子」と、気鋭の作曲家・ピアニストの「レーラ・アウエルバッハ」とのリサイタルを開催します。アウエルバッハは、ギドン・クレーメル、ヒラリー・ハーン等が作品を演奏するなど、今、世界的に注目されています。また、美術家、文筆家としても活躍するマルチな才能の持ち主です。日本初披露となる“ヴィオラとピアノのための24の前奏曲”にご期待ください。

好評をいただいている世界一周音楽の旅シリーズでは、北欧フィンランドを代表するフォーク・グループ「ヴァルティナ」がやってきます。フィンランドの伝統音楽は、地声を活かした独特の歌唱法が特徴で、大地を唸らせるかのような神秘的な響きがします。彼らの音楽は、カレリア地方の音楽がベースになっていますが、作曲家シベリウスもこの地を訪れ、影響を受けたといわれています。クラシック音楽とはまた違った視点で楽しんでいただけると思います。

この他、クラシック音楽の王道から現代音楽まで、幅広いプログラムを用意しております。是非、本年も変わらぬご愛顧のほど、よろしくお願いいたします。

（あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール　宮地泰史）

世界をリードする弦楽四重奏の響宴

Vol.4 ベネヴィッツ・クァルテット、Vol.5 アタッカ・クァルテット

本シリーズもとうとう残り2公演となり、クライマックスに相応しい公演が並びます。ベネヴィッツ・クァルテットが活動するチェコは昔から「弦楽器の国」と称され、独特な深みのある音色が音楽ファンを虜にしてきました。いぶし銀のような弦楽四重奏のサウンドも脈々と受け継がれて、東欧ならではのビロードの響きを楽しむことが出来ます。同団体は2018年のクラシック・プラハ・アワードの「ベスト室内楽」に選出されていて、まさにチェコを代表する団体です。

アメリカはクラシックの歴史が浅いように思われがちですが、大戦時に多くの音楽家がヨーロッパからアメリカに逃れて、音楽の伝統をそのまま伝えています。現在では弦楽四重奏の活動と教育が最も盛んな国でしょう。数多の弦楽四重奏が盛衰する中、アタッカ・クァルテットは音楽に対する深い洞察が評価され15年以上発展を続ける団体です。今回演奏するC. ショウは史上最年少でピューリツァー賞を受賞した、最も注目を集める作曲家です。敬遠されがちで理解困難なゲンダイオンガクとは違い、馴染みやすく聴こえるモティーフの不思議な変化を楽しめます。同団体によるショウ作品集のCDは、2019年のグラミー賞で「室内楽部門」と「現代作品部門」の2部門にノミネートされています。今、アメリカで最もホットな組み合わせをアジアで初めて聴くことが出来るのは、ザ・フェニックスホールのお客様です。

そして2020年はベートーヴェン生誕250年。それぞれ第15番と第14番を演奏します。彼は第九などの交響曲も有名ですが、第九から亡くなるまで約3年で5曲の弦楽四重奏を作曲し、その全てが音楽史に燦然と輝く金字塔です。15番の第3楽章は「病より癒えたる者の神への聖なる感謝の歌」と題され、神界に導かれるような美しい音楽が奏でられます。作曲順では15番より後に作られた14番で、彼は既存の形式を完全に脱却し、時代を先取りするかのような境地に達します。

ベートーヴェンの記念年に、是非「第九 その後の世界」をお愉しみください。

（日本室内楽振興財団 プロデューサー　河井 拓）

公演情報

「ベネヴィッツ・クァルテット」は、2020年2月20日(木)19:00開演。入場料4,000円(友の会3,600円)、学生1,500円(限定数。ザ・フェニックスホールチケットセンターのみお取り扱い)。

[プログラム]
スメタナ：弦楽四重奏曲 第2番 ニ短調
シューマン：弦楽四重奏曲 第2番 ヘ長調 op.41-2
ベートーヴェン：弦楽四重奏曲 第15番 イ短調 op.132　(予定)

「アタッカ・クァルテット」は、2020年4月11日(土)15:00開演。入場料4,000円(友の会3,600円)、学生1,500円(限定数。ザ・フェニックスホールチケットセンターのみお取り扱い)。

[プログラム]
ハイドン：弦楽四重奏曲 ハ長調 op.20-2
キャロライン・ショウ：Entr'Acte／Valencia ＊アジア初演
ベートーヴェン：弦楽四重奏曲 第14番 嬰ハ短調 op.131　(予定)

チケットのお求め、お問合わせは同センター(電話06-6363-7999 土・日・祝を除く平日10時～17時)。

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール協賛公演のご案内

ザ・フェニックスホール友の会会員の方には割引特典があります。当日券をお買い求めの際は会員証をご提示ください。

協賛公演

ベルリン・フィルのメンバーによる室内楽 ピアノ四重奏の夕べ── モーツァルト、フォーレ、ドヴォルザーク

主催　コジマ・コンサートマネジメント

発売中

2020年3月16日(月) 19:00開演　指定席　一般前売・当日¥5,500(友の会会員¥4,900)　※友の会割引は前売のみ。

出演　ガイ・ブラウンシュタイン(ヴァイオリン)、アミハイ・グロス(ヴィオラ)、オラフ・マニンガー(チェロ)、オハッド・ペン=アリ(ピアノ)

曲目　モーツァルト：ピアノ四重奏曲 第1番 ト短調 K.478　フォーレ：ピアノ四重奏曲 第1番 ハ短調 op.15
ドヴォルザーク：ピアノ四重奏曲 第2番 変ホ長調 op.87

ベルリン・フィルのメンバーによる室内楽、2020年春はモーツァルト、フォーレ、ドヴォルザーク。

協賛公演

山田剛史ピアノリサイタル ～ベートーヴェンの見たもの～

主催　iroha音楽企画

1/20(月)発売

2020年4月25日(土) 14:00開演　自由席　一般前売・当日¥3,500(友の会会員¥3,150)　学生前売・当日¥2,000

出演　山田剛史(ピアノ)

曲目
ベートーヴェン：ピアノソナタ 第8番 ハ短調「悲愴」op.13
幻想曲 op.77
ピアノソナタ 第14番 嬰ハ短調「月光」op.27-2
ピアノソナタ 第17番 ニ短調「テンペスト」op.31-2
ピアノソナタ 第21番 ハ長調「ワルトシュタイン」op.53

イギリス組曲全曲演奏やゴルトベルク変奏曲など、バッハの演奏に定評のある山田剛史が、生誕250年のベートーヴェンと向き合います。音楽の世界に啓蒙主義の光をもたらしたのがベートーヴェン。例えば「ワルトシュタイン」ソナタの冒頭には、フリーメーソンの会員を示す「扉をノックする音型」が聞こえますし、第2楽章冒頭の美しく壮大な「夜明け」は、新しい時代の幕開け、社会の大きな変革を暗示します。古楽器の演奏経験も踏まえ、ベートーヴェンの名曲に新たな視点で切り込みます。

協賛公演　澤クワルテット結成30周年記念 ベートーヴェン中期・後期弦楽四重奏曲シリーズ <全4回>

1月下旬発売予定

<第1回>2020年5月6日(水・祝) <第2回>2020年7月4日(土) <第3回>2020年10月10日(土) <第4回>2020年12月26日(土)

いずれも14:00開演　自由席　一般前売・当日¥4,500(友の会会員¥4,000)　学生前売・当日¥3,000　4回連続券¥15,000

主催　モーツァルト・サロン

曲目
<第1回>ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第11番 ヘ短調「セリオーソ」op.95
弦楽四重奏曲 第16番 ヘ長調 op.135
弦楽四重奏曲 第9番 ハ長調「ラズモフスキー第3番」op.59-3
<第2回>ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第8番 ホ短調「ラズモフスキー第2番」op.59-2
弦楽四重奏曲 第10番 変ホ長調「ハープ」op.74
弦楽四重奏曲 第12番 変ホ長調 op.127
<第3回>ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第7番 ヘ長調「ラズモフスキー第1番」op.59-1
弦楽四重奏曲 第14番 嬰ハ短調op.131
<第4回>ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第15番 イ短調 op.132
弦楽四重奏曲 第13番 変ロ長調 op.130

出演
澤和樹、大関博明(以上ヴァイオリン)、市坪俊彦(ヴィオラ)、林俊昭(チェロ)

1990年の結成以来、1人のメンバー交代もなく30年。熟成と進化を続ける澤クワルテットが生誕250年を迎えるベートーヴェンの中期・後期の弦楽四重奏曲に満を持して挑む4回シリーズ。

©武藤章

協賛公演　オーギュスタン・デュメイ&関西フィルハーモニー管弦楽団 スプリング・スペシャルコンサート

1/15(水)発売

主催　公益財団法人 関西フィルハーモニー管弦楽団

2020年5月8日(金) 19:00開演　指定席　一般前売・当日¥4,000(友の会会員¥3,600)　学生(25歳以下)前売・当日¥2,000

出演　オーギュスタン・デュメイ(ヴァイオリン)、中島悦子(ヴィオラ)、広瀬悦子(ピアノ)
曲目　ブラームス:F.A.E.ソナタ より 第3楽章「スケルツォ」
ヴァイオリンソナタ 第3番 ニ短調 op.108
ヴィオラ三重奏曲 変ホ長調 op.40(原曲:ホルン三重奏曲)

大阪の街中の"音の聖域"で、音楽監督デュメイ&関西フィルの魅力を体感していただくスプリング・スペシャルコンサート!広瀬悦子をゲストに迎え、関西フィルの中島悦子とともに、デュメイが存在感満点のヴァイオリンを奏でるブラームスを中心にお贈りいたします。あなたの眼の前の緊密な空間で奏でられる、極上のアンサンブルを存分にご堪能ください。これぞ小規模ホールならではの醍醐味!

©HIKAWA

協賛公演　辻本 玲 チェロリサイタル

主催　フィリー企画

1/15(水)発売

2020年5月27日(水) 19:00開演　自由席
一般前売¥3,3,000(友の会会員¥2,700)　一般当日¥3,500(友の会会員¥3,150)　学生前売¥1,500　学生当日¥2,000

出演　辻本 玲(チェロ)、大伏啓太(ピアノ)
曲目　グリーグ:チェロソナタ イ短調 op.36　　ベートーヴェン:チェロソナタ 第3番 イ長調 op.69
ブリテン:チェロソナタ ハ長調 op.65　　カサド:親愛なる言葉

今回のリサイタルはノルウェーで生まれ育ったエドヴァルド・グリーグが40歳の時に作曲したチェロソナタを中心にチェロの名曲をストラディバリウスで歌心たっぷりにお届けします。

協賛公演　ヴィオラスペース2020 vol.29 Happy Birthday Beethoven and Hindemith!

2/14(金)発売

2020年5月29日(金) 19:00開演　指定席　一般前売・当日¥5,000(友の会会員¥4,500)
U25¥2,500(1995年以降生まれの方限定。公演当日に生年を証明できるものを持参ください。)

主催　テレビマンユニオン
特別協賛　NTTファイナンス株式会社

出演　今井信子、小峰航一(以上ヴィオラ)、小栗まち絵(ヴァイオリン)、草冬香(ピアノ)、相愛大学学生
曲目
ヒンデミット:ヴィオラソナタ op.11-4
八重奏曲より
ベートーヴェン:ホルンソナタ ヘ長調 op.17
七重奏曲 変ホ長調 op.20 より　他

「ヴィオラの礼賛」、「優れたヴィオラ作品の紹介と新作発表」、「若手の育成」をテーマに毎年開催するヴィオラのための音楽祭。2020年はベートーヴェンの生誕250年にあたり、世界各地で特別企画が目白押し。また作曲家、指揮者、ヴィオラ奏者として活躍したヒンデミットの生誕125年にもあたる。ヴィオラスペースでは、この2人の偉大な作曲家にスポットを当てる。

©MarcoBorggreve

公演チケットのお申込み方法

お申し込みは、お電話 06-6363-7999 またはご来店で

土・日・祝日を除く平日の10:00～17:00

■ チケットお申込み後のお受け渡し方法

下記①または②のどちらかとなります。
①お申込み日から10日以内にザ・フェニックスホールチケットセンターへご来店ください。
営業時間は土・日・祝日を除く平日の10:00～17:00です。
②先に郵便振込みをしていただき、入金確認後チケットをご郵送させていただきます。皆様のお手元にチケットが届きますのはご入金をいただいてから約10日後となります。その際、振込手数料はお客様にてご負担ください。
尚、郵送は簡易書留(一律420円)のみとさせていただきます。

振込口座　00940-0-95351　　加入者名　ザ・フェニックスホール

ザ・フェニックスホールチケットセンターは、ビル8階、エレベーターを降りて廊下右側です。

ヴァイオリンは「弾く」楽器なのか　— 木場大輔
～胡弓演奏家からの提言～

太鼓や鼓は「打つ」。笛は「吹く」。琵琶や箏、三味線は「弾く」。

日本語では演奏するという行為を、楽器の奏法により日常的に区別して表現してきた。どんな楽器でも基本的に“play”で片付く英語とは対照的である。では日本で唯一の弓でこする弦楽器、胡弓の場合はどうか。江戸時代初め頃に日本伝統楽器の仲間入りした胡弓には、「擦る」という言葉が充てられた。文楽や歌舞伎の名作『阿古屋』において、重忠が阿古屋に「三味線弾け」「胡弓擦れ」と命じるように、江戸期においては同じ弦楽器でも弦をはじく三味線は「弾く」、弓でこする胡弓は「擦る」と明確に区別されていた。その区別は、今なお一定の古典芸能関係者の間できちんと守られているのである。もし胡弓を「弾く」と言った場合、本来の意味に厳密に立ち戻れば、胡弓をバチや指ではじいて演奏するという意味になるはずである。

しかし明治以後、尺八が胡弓の代わりに箏や三味線との合奏を担うことが増えて胡弓が衰退し、その一方で西洋楽器が次第に普及すると、和楽器の中でも元々マイナーな胡弓とともにあった「擦る」という言葉も存在が薄れていったようである。当時、オルガンやピアノなどの鍵盤楽器が登場し、従来の演奏方法による表現で対応できなくなった。推論だが、おそらくそのあたりから「吹く」「打つ」以外の楽器は全て一様に「弾く」ということになり、ヴァイオリンやチェロなど本来なら胡弓同様に「擦る」が最も相応しい弦楽器まで「弾く」楽器が拡大してしまったのかもしれない。(余談だが、弦をはじくチェンバロは「弾く」、弦をハンマーで叩くピアノは「打つ」、空気で音が出るオルガンやアコーディオンは「吹く」が本来なら相応しいのではないか。)

大正期には邦楽専門誌「三曲」の邦楽家の文中にも胡弓を「弾く」という表現が混じるようになり、その頃には「擦る」という言葉はすでに影が薄くなっていたことが窺える。

ちなみにお隣中国の楽器図鑑をみると、はじく弦楽器(撥弦楽器)は「弾弦楽器」、弓でこする弦楽器(擦弦楽器)は「拉弦楽器」として分類されている。中国語でも「弾」ははじく意味であり、弓で演奏する用法はないのだろう。日本語でも、琵琶を「弾ずる」など、漢文風にこの字を使った時は弦をはじくイメージが強調される。ピアノやヴァイオリンとともに拡大普及した「弾く」に、いつの間にか「擦る」が追いやられてしまったが、本来は「弾く」と「擦る」は異なる奏法を指していたのである。そう考えると、胡弓のみならず、ヴァイオリンやチェロも、二胡や馬頭琴も、日本語としては「擦る」といったほうが相応しいのではないか。

この「擦る」という伝統ある日本独自の言葉を復権させられないものか。胡弓を専門とする私としては、弓で演奏する行為に対して本来はじく意味の「弾く」という言葉は避け、できる限り「擦る」、もし意味が伝わりにくいならせめて妥協案で「奏でる」に言い換えるべき、と提唱してゆきたい。むしろ胡弓奏者よりも圧倒的に多い演奏人口を持つヴァイオリン、チェロ奏者の皆さんにこそ、ぜひとも「擦る」と言って頂きたいものである。ヴァイオリンを「擦る」、チェロを「擦る」が普通になり、ギターを「吹く」、フルートを「弾く」と聞いて違和感を抱くのと同じように、胡弓を「弾く」、ヴァイオリンを「弾く」というのはおかしな日本語だ、ピッツィカートしかしないんですか、というぐらいになればと思う。目下、一番の強敵は、「屋根の上のヴァイオリン弾き」「セロ弾きのゴーシュ」、新見南吉の「最後の胡弓弾き」あたりか。

木場大輔(きば・だいすけ)／胡弓演奏家
淡路島出身。甲陽音楽学院にて音楽理論とピアノを学ぶ。古典胡弓を原一男師に師事。一方で文楽、風の盆、尾張万歳など日本各地で伝わる胡弓の奏法を研究。胡弓の伝統を尊重しつつも、四絃胡弓の開発、作曲など、胡弓の可能性を追求している。
NHK Eテレ「にっぽんの芸能　花鳥風月堂」「新春眼福！花盛り」などに出演。吉田兄弟全国ツアーや、映画「駆込み女と駆出し男」サントラ、楽曲提供など、幅広く活動を展開。胡弓重奏プロジェクト「弓連者」主宰。「絹擦会」を東京・横浜・大阪にて主宰。

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社は、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールをフェニックスタワー内に設けています。芸術・文化の発信基地として、関西の芸術文化発展に寄与しています。

〒530-0047 大阪市北区西天満4-15-10 あいおいニッセイ同和損保フェニックスタワー8F TEL 06-6363-0211

Copyright(C) 2011 The Phoenix Hall All rights reserved. 本誌に掲載された記事、写真、イラスト等の無断掲載を禁じます。

発行年月　2020年1月
発　　行　あいおいニッセイ同和損保 ザ・フェニックスホール
編　　集　諸藤修一
デザイン　松井桂三有限会社